

陳 情 文 書 表

(教育委員会)

受 理 番 号	1 3 2 1	受 理 年 月 日	令 和 5 年 11 月 27 日
件 名	学校調理方式による全員制中学校給食の実施等		
要 旨	<p>京都市教育委員会は今年度、全員制中学校給食に向けた検討会議を立ち上げ、京都に暮らす中学生の食育のために、中学校給食の実施方式を検討・分析されたことと思う。</p> <p>昨今出された新聞報道によると、全国一の規模を持つ給食センターを南区に建設し、一つのセンターによって京都市内全域の中学校に配送する計画であるとされている。検討会議での状況からすると、運営予算がその検討の中心的内容で、子供たちへのきめ細かな対応を含めた食育としての観点がないがしろにされているように感じる。</p> <p>今年度の予算を掛けた調査でも、実際に各中学校を訪れて学校調理を行ったときの状況や給食室の設置可能検討など詳細調査に欠けている内容だと思える。きめ細かな実施に対する調査と、食育としての給食の大切さを改めて見直し、十分な調査を進めていただくように要望する。</p> <p>一極集中的な工場ではなく、リスク分散やその地域や学校の実情に応じた対応ができるように地域型の学校調理方式が必要である。食品衛生管理の観点からも、作ったものをすぐ近くで時間を置かずに食べられるよう検討すべきと思われる。学校調理方式の出来立てのおいしい給食が子供たちには大切で、給食を通した食育も進めやすくなる。調理員の労働環境としても顔の見える関係での調理は作った手応えが即時に感じ取れ、やりがいにつながる職場となる。小学校の給食室等既存施設の活用により、初期経費が抑制できる親子方式、また、兄弟方式も含め、自校調理方式を組み合わせた学校調理方式を検討し、食育の充実を図っていくことを望む。</p> <p>ついては、全員制の中学校給食に向けて、以下のことを願う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 安全でおいしく食育も進めやすい学校調理方式で検討を進めること。 2 給食内容や食育の充実のために1校1名の栄養教諭を配置すること。 		
陳 情 者			
回 付 委 員 会	文教はぐくみ委員会		